



▲空からみた大倉山の全体（昭和47年撮影）

「むかし」の大倉山

大 倉山が「山」ではな
かったことをご存じで
しょうか。現在の所在地は、

「宮の森一七四番地」です
が、この位置に初めてジャン
プ台が建設されたころは、札
幌郡琴似村大字琴似村の「オ
ンコの沢上流高地」と呼ばれ
ており、札幌神社（現在の北
海道神宮）の外苑飛び地でし
た。

の「オンコの沢上流高
地」にジャンプ台が造
られたきっかけは、スポーツ
好きで知られた、昭和天皇の
弟宮の故秩父宮が「札幌に世
界にも通じるような大きなジ
ャンプ台が必要」とおっしゃ
ったことが始まりです。その

話を聞いた当時の北海道大学
スキー部長の大野精七博士が
ジャンプ台造りに情熱を注ぎ、
この地にジャンプ台が造られ
ることになりました。

大 倉とは、昭和六年初
代ジャンプ台を建設す
る際に資金を提供した「大倉
喜七郎男爵」の名に由来する
もので、このジャンプ台は

「大倉ジャンツェ」と名付け
られました。その建設費は、
五万四十八円だったとのこと
です。

このジャンツェの開場式は、
昭和七年一月に行われ、記
念すべき最初の飛行距離は、
三十四メートルに終わりました。

昭 和二十八年に「大倉シ
ャンツェ」は、それま
での60級から80級に改修、
その北側に70級のジャンプ
台「雪印ジャンツェ」が新設

されました。一時期、大倉山
には大小二つのジャンプ台
（写真・表紙参照）が併設さ
れ、この二つの台を札幌オリ
ンピックで使用する案もあっ
たそうです。しかし、オリ
ンピックに使用するには敷地が
狭いことから、宮の森ジャン
プ台を建設しました。



▲昭和47年（札幌オリンピック当時）
提供：札幌市写真ライブラリー

そ の後、昭和四十五年に
札幌オリンピック開催
のため大改修した時に、ドイ
ツ語の「ジャンツェ」を英語
読みの「大倉山ジャンプ競技
場」と変更しました。その時
に「山」の一字が付け加えら
れ、それ以来「大倉山」と
呼ばれるようになりました。

「いま」の大倉山

大 倉山ジャンプ競技場」
を中心とする「大倉山」

は、FIS※のルール改正に
伴い平成八年にジャンプ台が
全面改修し、「札幌ウインタ
ースポーツミュージアム」や
競技場リフトなどの周辺施設

が、平成十二年までにリニ
ューアルオープンされました。
現 在、日本のラージヒ
ル・ジャンプ台は、長
野県白馬と大倉山の二カ所
のみで、大倉山は、サマージ
ャンプやナイター設備も備えて
おり、ワールドカップなど国
際大会の舞台となつていま
す。また、二月二十二日（木）から開
催されるFISノルディック
スキー世界選手権札幌大会の
会場でもあり、世界からも注
目されています。

ま た、展望台からの眺め
は、札幌の街並みが一
望でき、冬期間以外でも楽し
める施設に変貌しています。

※FIS（国際スキー連盟）



▶展望ラウンジの様子

大倉山のあゆみ

①昭和十年ごろ



②昭和四十五年ごろ



③昭和四十七年ごろ

